第１章　小野市の現況

(1)小野市の概況

1)位置

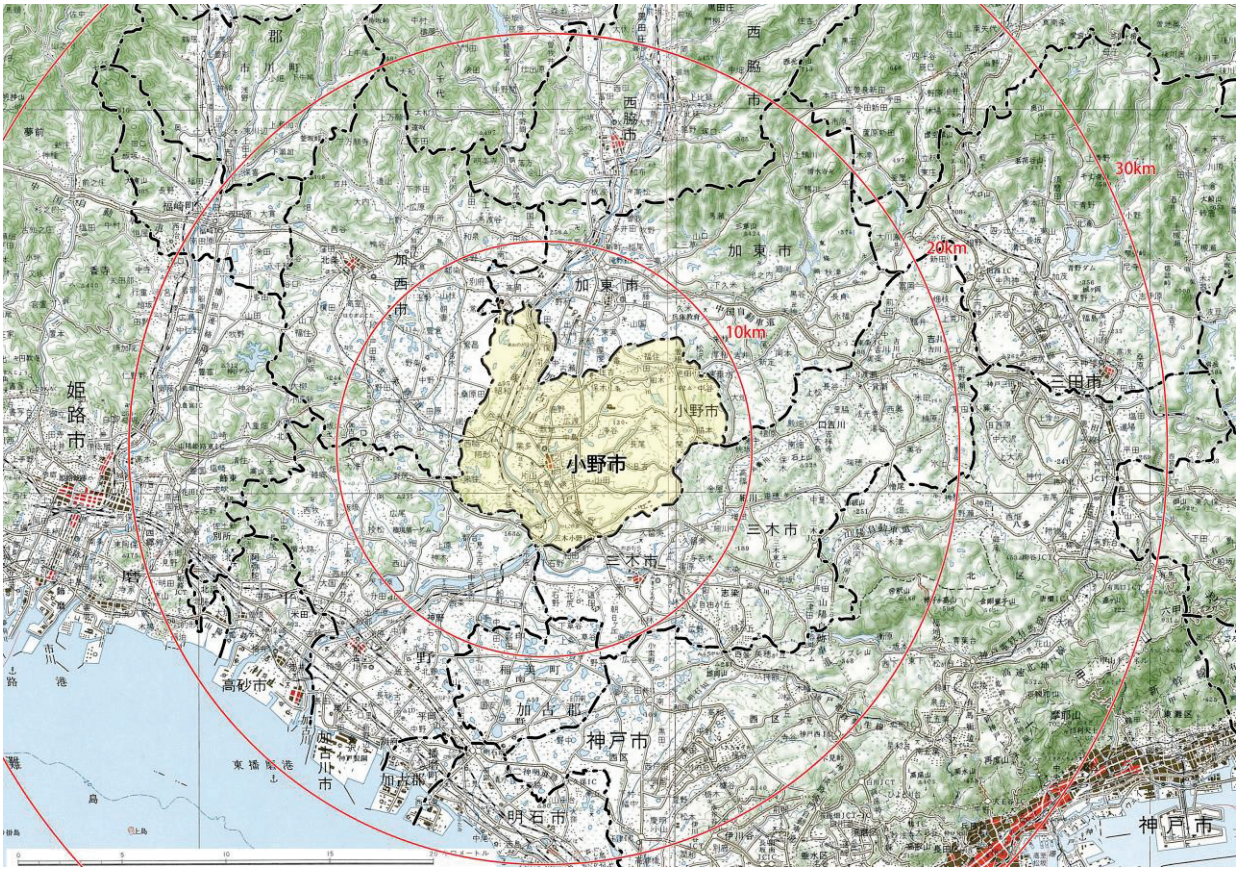
本市は、兵庫県の中南部・東播磨のほぼ中心に位置し、地域的には東播磨（東播）、北播磨（北播）に区分される。また、神戸市から約 30km、姫路市から約 25km に位置している。

本市は、明治 22 年の市制町村制施行により小野村（のち小野町）、河合、来住、市場、大部、下東条、福田の村が誕生したが、昭和 29 年 12 月 1 日に小野、河合、来住、市場、大部、下東条の 6 町村が合併して市制を施行、昭和 31 年 4 月 1 日には加東郡社町の久保木、古川を編入合併し、現在の小野市が誕生した。

本市の西部には、兵庫県最大の流域を持つ一級河川加古川が南流し、その沿岸には扇状地性低地が分布しており、中播丘陵台地と接している。東部には、一級河川加古川の支流である一級河川東条川、一級河川万勝寺川などが西流し、一級河川加古川に注ぎ、その沿岸には、砂礫台地が形成され、北摂東播丘陵に接している。

気候は、瀬戸内式気候に属し、温暖少雨であり、年間平均気温は 15.9℃、年間降水量は、令和 5 年までの 5 年平均で約 1,128mm と少ない。

交通は、北側に中国自動車道、南側に山陽自動車道及び神戸淡路鳴門自動車道といった高規格幹線道路が整備され、陸上交通の要所に位置している。市内には、高規格幹線道路をつなぐ南北交通の軸として国道 175 号がほぼ中央を走っている。



1/200,000 地勢図　姫路（平成 23 年 8 月 1 日）の 60%縮尺

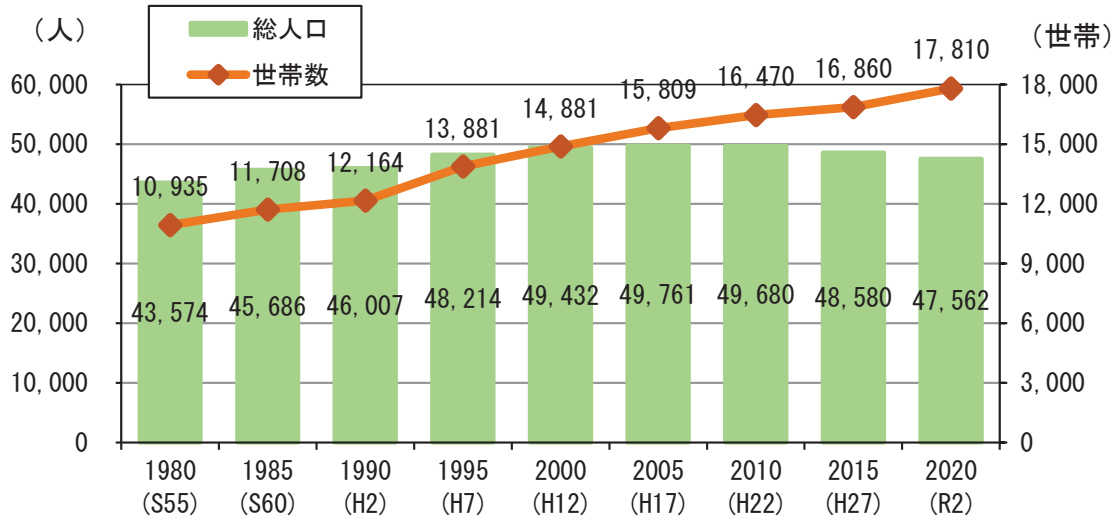
京都及大阪（平成 24 年 6 月 1 日）の 60%縮尺

図１－１　小野市の位置

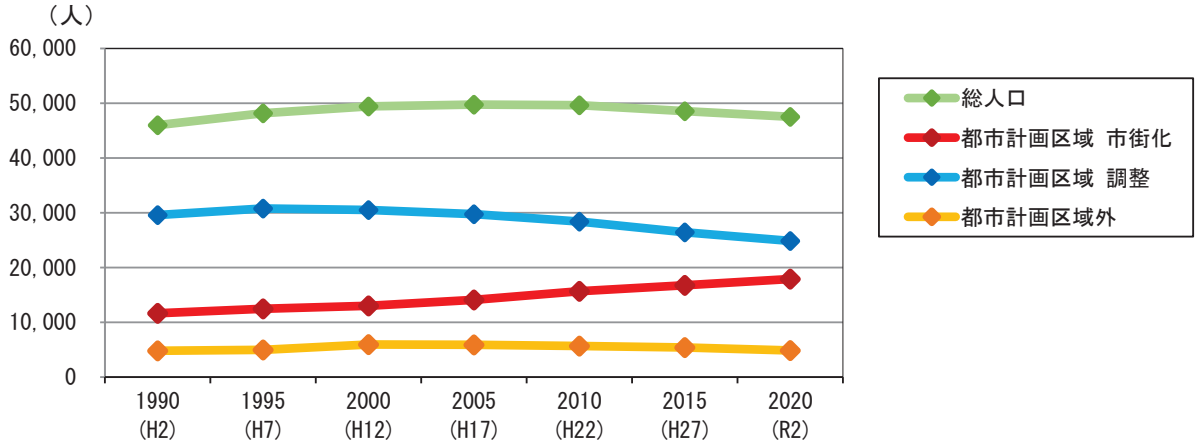
2) 人口

本市の人口は、47,562 人（令和 2 年国勢調査結果）であり、統計調査開始当初から増加を示していたが、平成 22 年には減少に転じた。一方で、世帯数は増加を続けている。

市街化区域内の人口は、令和 2 年時点も増加を続けており、都市計画区域に占める市街化区域の人口の割合も増加している。一方で、市街化調整区域内の人口は、平成 7 年をピークに減少に転じ、以降、人口減少が進んでいる。



出典：各年国勢調査



			1990 (H2)	1995 (H7)	2000 (H12)	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)
総人口		人	46, 007	48, 214	49, 432	49, 761	49, 680	48, 580	47, 562
都市計画区域		人	41, 212	43, 268	43, 485	43, 856	44, 030	43, 215	42, 737
	市街化	人	11, 625	12, 463	12, 995	14, 087	15, 650	16, 753	17, 902
	割合※	%	28. 2	28. 8	29. 9	32. 1	35. 5	38. 8	41. 9
	調整	人	29, 587	30, 805	30, 490	29, 769	28, 380	26, 462	24, 835
都市計画区域外		人	4, 795	4, 946	5, 947	5, 905	5, 650	5, 365	4, 825

※都市計画区域に占める市街化区域の割合
出典：各年国勢調査

図１－２　区域区分別人口の推移

地区別人口は、平成 12 年と令和 2 年を比較すると、小野地区と市場地区は増加を示しているが、その他の地区では減少している。なかでも、河合地区は減少が大きく、平成 12 年から令和 2 年の 20 年間に 23.2%減少した。

表１－１　地区別人口の推移

	2000(H12)（人）	2005(H17)（人）	2010(H22)（人）	2015(H27)（人）	2020(R2)（人）	2000(H12)－2020(R2)（%）
小野	13,901	14,363	15,056	15,481	15,537	11.8
小野東	6,554	6,627	6,406	6,287	6,247	-4.7
河合	6,770	6,548	6,090	5,637	5,196	-23.2
来住	3,646	3,548	3,399	3,300	3,046	-16.5
市場	7,750	7,795	8,306	8,268	7,994	3.1
大部	5,120	4,974	4,757	4,538	4,189	-18.2
下東条	6,204	6,083	5,828	5,609	5,033	-18.9
市全域	49,945	49,938	49,842	49,120	47,242	-5.4

※各年 12 月末現在（H27 は 2 月末、R2 は 4 月末現在）
出典：各年住民基本台帳

年齢別人口を見ると、少子高齢化が進んでおり、令和 2 年では老年人口（65 歳以上）の割合が全体の 29.1%、年少人口（0 歳～14 歳）の割合が全体の 13.3%となっている。

表１－２　年齢 3 階級別人口の推移

	1990(H2)	1995(H7)	2000(H12)	2005(H17)	2010(H22)	2015(H27)	2020(R2)
総人口（人）	46,007	48,214	49,432	49,761	49,680	48,580	47,562
0～14 歳（人）	8,904	8,342	8,135	7,912	7,638	7,052	6,325
15～64 歳（人）	30,901	32,509	32,704	32,037	30,893	28,711	27,104
65 歳～（人）	6,172	7,363	8,593	9,798	11,125	12,647	13,844
年齢不詳（人）	30	0	0	14	24	170	289

出典：各年国勢調査

昼夜間人口は、年々その比率がきっ抗しており、平成 22 年以前はわずかに夜間人口が多いが、平成 27 年以降は昼間人口が多くなっている。

通勤・通学の流出入では、流出人口が約 1.2 万人に対し、流入人口は約 1.3 万人である。主な流出先は、三木市、加東市、神戸市である。

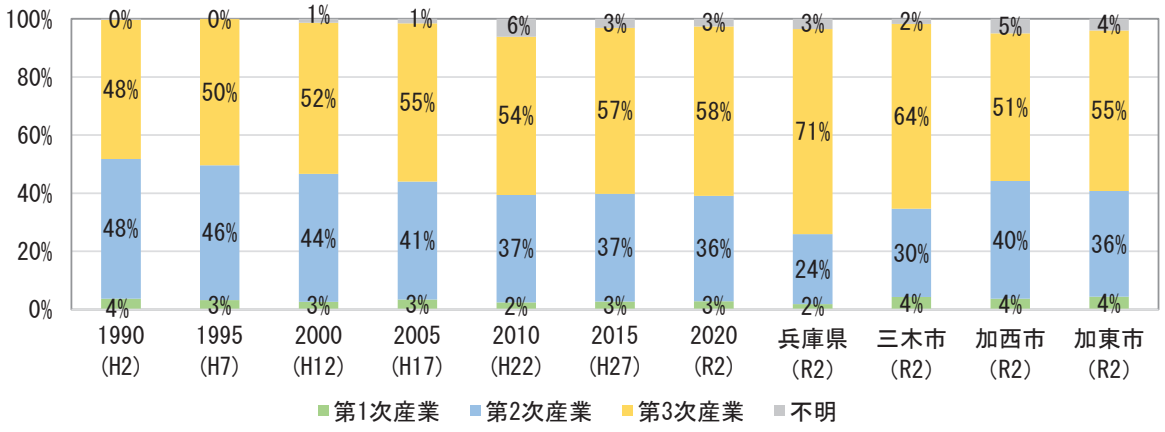
表１－３　昼間人口及び夜間人口の推移

	1990(H2)	1995(H7)	2000(H12)	2005(H17)	2010(H22)	2015(H27)	2020(R2)
夜間人口（人）	45,977	48,214	49,432	49,747	49,680	48,580	47,562
昼間人口（人）	42,783	45,545	47,930	49,218	48,973	48,868	48,324
昼夜比率（%）	0.93	0.94	0.97	0.99	0.99	1.01	1.02

出典：各年国勢調査

3) 産業

就業人口をみると、第 3 次産業就業者の割合が最も多いものの、県平均より約 13 ポイント低く、第 2 次産業就業者の割合は県平均より約 12 ポイント高くなっている。



	1990 (H2)	1995 (H7)	2000 (H12)	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)
就業者（人）	22, 916	25, 129	24, 668	24, 789	23, 994	23, 487	23, 363
第 1 次産業（人）	855	794	633	834	575	644	647
第 2 次産業（人）	11, 008	11, 678	10, 883	10, 068	8, 883	8, 697	8, 486
第 3 次産業（人）	10, 977	12, 638	12, 827	13, 520	13, 050	13, 428	13, 628
不明（人）	76	19	325	367	1, 486	718	602

図１－３　就業人口の推移

出典：各年国勢調査

製造品出荷額等の推移をみると、平成 25 年以降、令和 2 年度まで製造品出荷額は増加傾向にあるものの、令和 3 年以降に減少に転じている。事業所数は減少傾向にあるものの、従業者数は平成 26 年以降増加している。

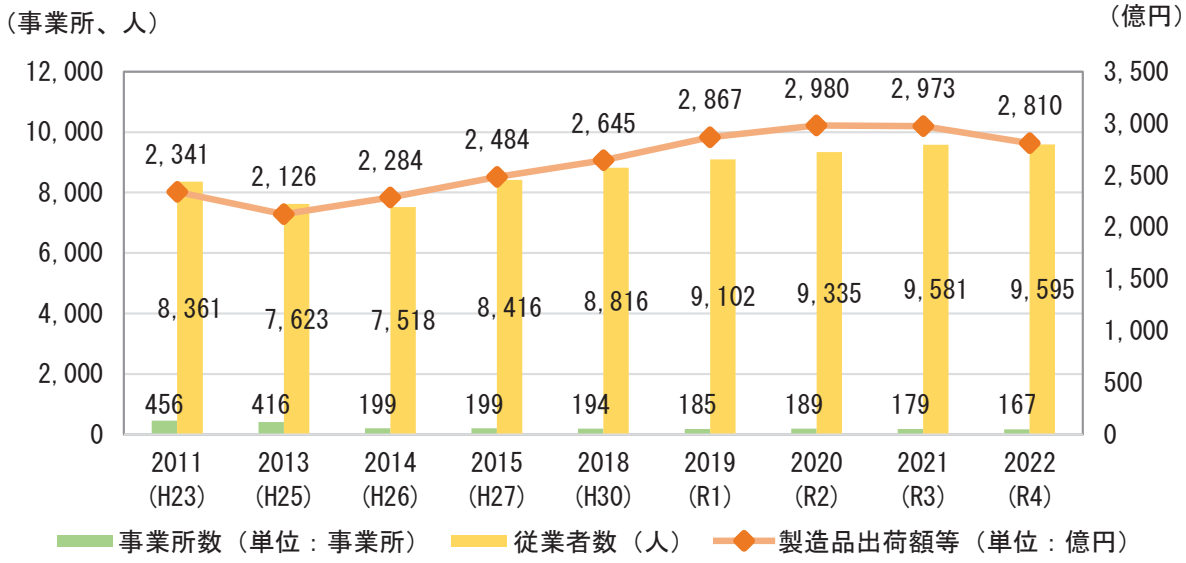


図１－４　製造品出荷額等の推移

出典：各年小野市統計書

4) 交通

鉄道、路線バス、らん♡らんバス(注)の利用者・乗車人数は、新型コロナウイルス感染症のまん延による影響を受け、令和元年度から令和２年度にかけて減少したが、令和２年度以降、横ばいまたは回復傾向にある。

表１－４　鉄道における１日平均乗車人数の推移

（人）

		2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
JR	青野ケ原	161	179	164	160	149	158	139	136	138	143
	河合西	176	171	161	156	146	152	141	149	152	149
	粟生	915	939	980	1001	1029	1038	894	907	935	937
	小野町	396	407	421	417	398	413	336	341	355	376
	市場	192	206	214	213	207	196	159	183	201	192
	計	1,840	1,902	1,940	1,947	1,929	1,957	1,669	1,716	1,781	1,797
神戸電鉄	粟生	804	838	849	838	820	859	787	764	778	787
	葉多	118	129	128	110	100	103	91	101	108	124
	小野	1,707	1,737	1,732	1,731	1,740	1,753	1,549	1,532	1,533	1,525
	市場	109	105	99	103	107	100	92	85	82	72
	樫山	211	216	208	237	274	290	239	261	229	262
	計	2,949	3,025	3,016	3,019	3,041	3,105	2,758	2,743	2,730	2,770

出典：各年小野市統計書

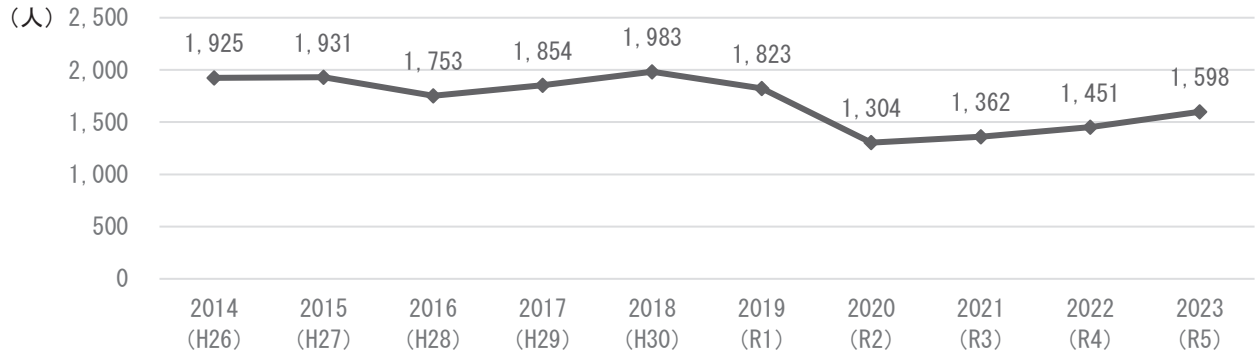


図１－５　路線バスにおける１日平均乗車人数の推移

出典：各年小野市統計書

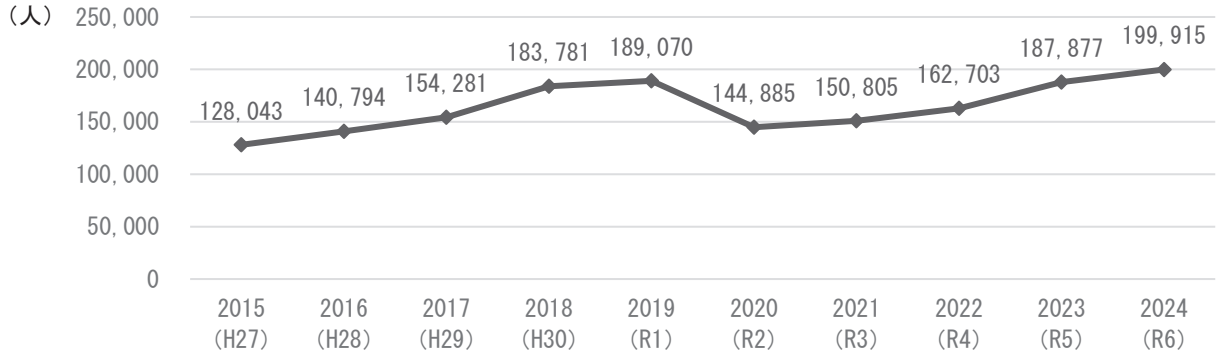


図１－６　らん♡らんバスにおける年間利用者の推移

出典：庁内資料

（注）らん♡らんバス：本市におけるコミュニティバス

5) 都市施設

①都市計画施設

都市計画道路は、令和 7 年度末時点で 13 路線、計画総延長 28,610m が決定している。

都市計画公園は、令和 7 年度末時点で 9 箇所決定されており、計画面積は合計 18.89ha となっている。

下水排水区域は約 3,395ha であり、下水道普及率は令和 7 年 3 月末時点で 99.6%となっている。

表１－５　下水道普及率

	行政人口（人）	下水道処理人口（人）	下水道普及率（%）
公共下水道	46,597	46,445	99.6%

出典：庁内資料

②土地利用

地区計画は、令和 7 年度末時点で計 10 地区、149.8ha となっている。そのうち、市街化区域内に 7 地区、市街化調整区域内に 3 地区となっている。

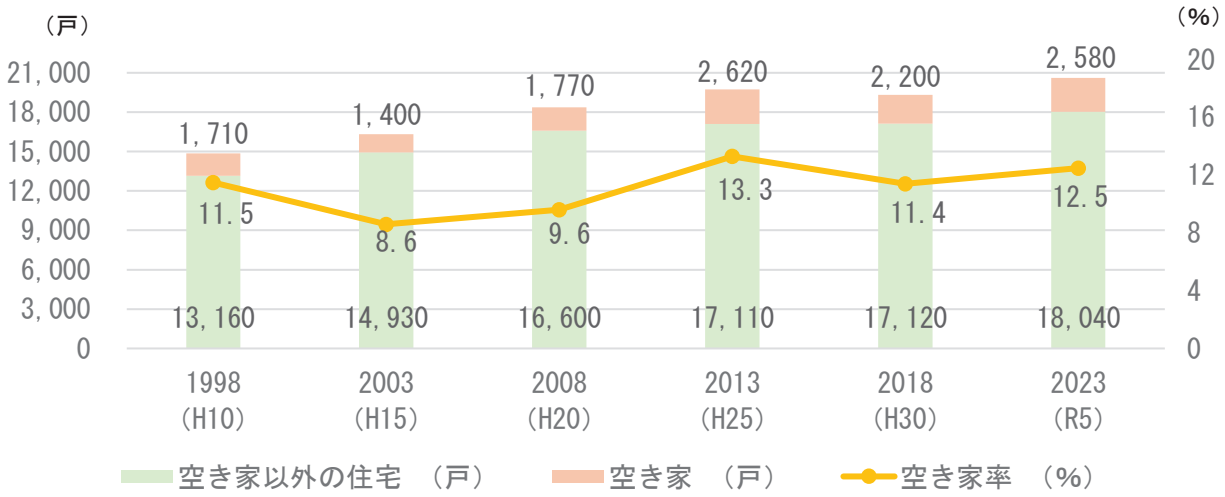
兵庫県では、「特別指定区域制度」を創設し、市街化調整区域における建築制限の緩和を図っている。特別指定区域制度は、条例に基づき、市又は地域のまちづくり団体が、市街化調整区域の土地利用計画を策定し、市がその土地利用計画に基づき区域指定について、県と調整を行うことにより、地域の活性化等に必要な建築物の立地を可能とする制度である。本市では、平成 17 年度の導入以降、48 地域が指定されている。

本市の土地区画整理事業による事業区域は 10 地区あり、全て整備完了している。黒川町地区において、「(仮称) 図書館東地区土地区画整理事業」として令和 5 年度より準備検討会を立ち上げ、小野市役所南側の地区の市街地開発に向け、取り組みを進めている。

6) 空き家

住宅・土地統計調査による本市の空き家状況は、平成 15 年以降増加傾向にあったものの、平成 25 年をピークに減少傾向にある。

小野市空家等対策計画（令和 5 年 3 月改定）では、空き家等の実態調査（外観調査、実施期間：令和 4 年 6 月～令和 4 年 9 月）を行っている。調査された空き家等数は、全体で 615 棟あり、小野地区が最も多く 200 棟（33%）となっている。



	1998 (H10)	2003 (H15)	2008 (H20)	2013 (H25)	2018 (H30)	2023 (R5)
住宅総数 （戸）	14,870	16,330	18,370	19,730	19,320	20,620
空き家以外の住宅 （戸）	13,160	14,930	16,600	17,110	17,120	18,040
空き家 （戸）	1,710	1,400	1,770	2,620	2,200	2,580
空き家率 （%）	11.5	8.6	9.6	13.3	11.4	12.5

図１－７　本市の空き家状況

出典：各年住宅・土地統計調査（総務省）

表１－６　市空家等対策計画による空き家状況

地区名	空家棟数（棟）					
	危険空家	危険空家（予備軍）	空家（問題なし）	空家総計	問題なし（更地・建替等）	合計
小野	15	98	87	200	65	265
河合	15	46	59	120	24	144
来住	3	26	30	59	8	67
市場	8	48	33	89	21	110
大部	2	20	15	37	11	48
下東条	15	56	39	110	23	133
総計	58	294	263	615	152	767

出典：小野市空家等対策計画（改定版）（令和 5 年 3 月）

7) 自然災害

①風水害

本市には、土砂災害警戒区域の指定があり、急傾斜地の崩壊が 23 箇所、土石流が 20 箇所、市東部の丘陵地を中心にそれぞれ指定されている。また、洪水浸水想定区域は、一級河川加古川、一級河川東条川両岸の低地部を中心に指定されており、想定最大規模降雨での浸水想定区域図では、加古川と万願寺川が合流する箇所で 10m を超える浸水深が公表されている。

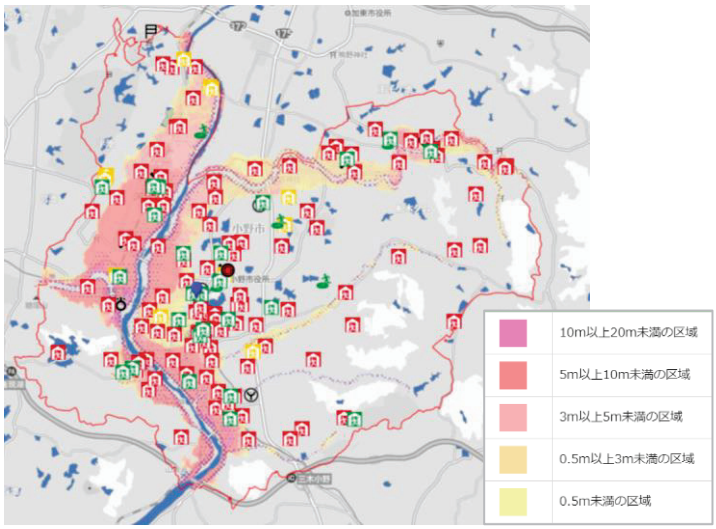


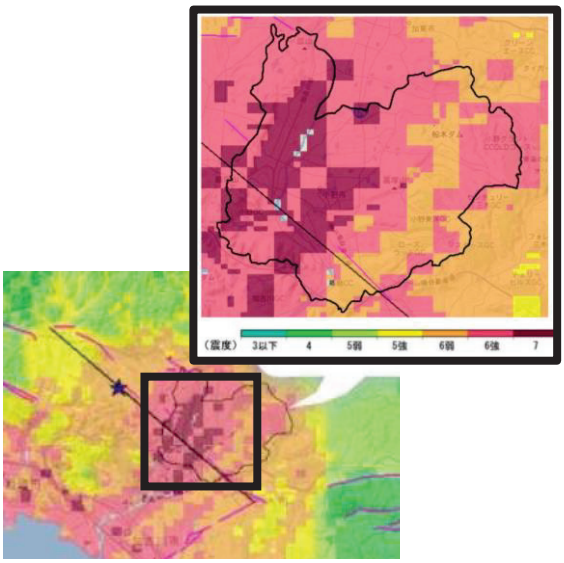
図１－８　最大規模降雨の浸水想定区域図

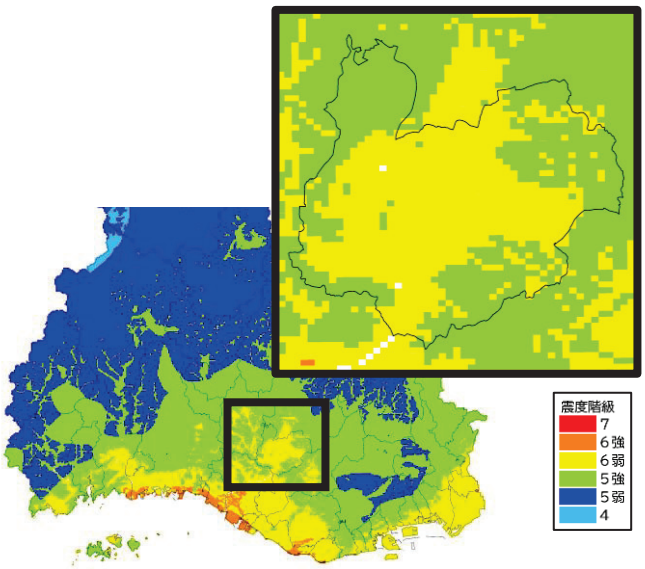
出典：小野市、web 版小野市防災マップ

②地震災害

山崎断層帯は、岡山県東部から兵庫県南部にかけて分布する活断層帯で、那岐山断層帯、山崎断層帯主部、草谷断層の 3 つの起震断層帯に区分される。本市の南部には、山崎断層帯主部南東部の一部の断層が存在し、市内全域で震度 6 弱以上が予測されており、特に加古川周辺の市西部では震度 7 や震度 6 強が予測される地域が多くある。

また、地震調査研究推進本部によると、30 年以内に 80%程度の確率で南海トラフ巨大地震が発生すると見込まれている。本市では、全域で 5 強以上が予測されており、市の中央部付近で 6 弱が予測されている。





（左図）図１－９　本市での山崎断層帯の地震の震度予測

出典：小野市 HP、山崎断層東南部地震動予測地図（令和 4 年 2 月更新）

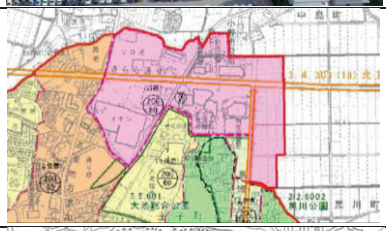
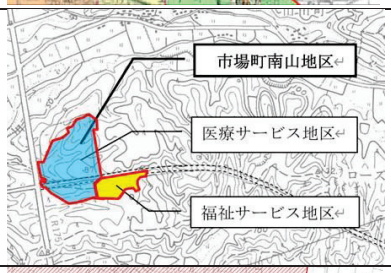
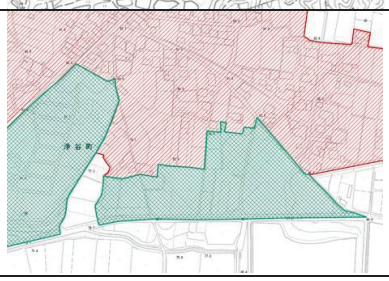
（右図）図１－10　本市での南海トラフ巨大地震の震度予測

出典：兵庫県、兵庫県南海トラフ巨大地震津波被害想定（平成 26 年 6 月）

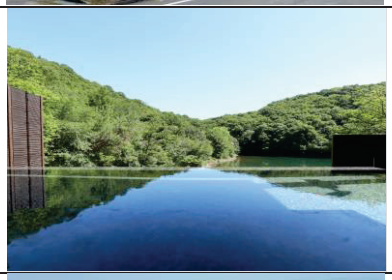
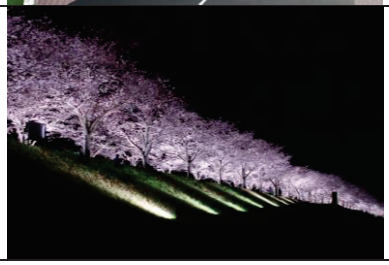
(2) 取り組んだ施策・事業

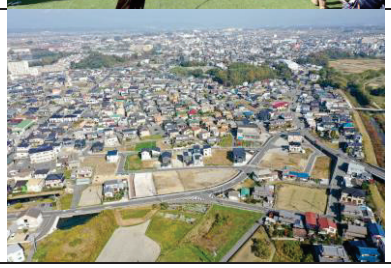
平成 28 年度に策定した都市計画マスタープラン以降（平成 28 年度～令和 7 年度）に進めてきた本市の主な施策・事業の状況は次のとおりである。

表１－７　都市計画マスタープラン（平成 28 年度策定）以降において取り組んだ施策・事業

主な施策・事業		概要・状況	整備の姿・イメージ
土地利用方針	シビックゾーンの充実	きらら通りを軸に、行政・文化・商業等の複合的な都市機能が集積するシビックゾーンの整備を進め、令和 2 年に市役所の新庁舎が開庁した。市役所を起点に都市機能が充実し活気とにぎわいが後世まで持続する「新たなまちづくり」を進める。	
	ひょうご小野産業団地の整備	県内初となる県と市の共同事業としてひょうご小野産業団地を整備した。令和元年から分譲を開始し、令和 4 年度に完売した。また、令和 8 年度中には全 8 区画で操業開始予定である。	
	小野長寿の郷構想の推進	医療・健康・福祉が一体となった理想の長寿社会を目指す兵庫県の構想の第一弾として、小野市・三木市が整備した北播磨総合医療センターの周辺において、兵庫県が平成 31 年に民間の複合老人福祉施設を誘致した。	
	区域区分（線引き）・用途地域の見直し	市役所やソロ池周辺を近隣商業地域に変更。復井町（加西市繁昌工業団地隣接地）を市街化区域に編入し工業地域に指定。ひょうご小野産業団地を市街化区域に編入し、準工業地域に指定した。	
	地区計画の決定・変更	古川町南地区地区計画、山田・池尻地区地区計画を決定した。また、市場町南山地区地区計画、敷地・中島地区地区計画を拡大した。	
	特別指定区域の指定	地域活性化を図るため、市街化調整区域の建築制限の一部を緩和する特別指定区域制度の活用を進めている。浄谷町地区に産業拠点区域や、市場町地区に沿道集積区域などの新規指定を実施した。	

主な施策・事業		概要・状況	整備の姿・イメージ
都市施設整備方針	消防署北分署の開署	平成 30 年 4 月に旭丘中学校西側に消防署北分署を新設した。これにより、本署・南分署・北分署の 3 署体制となった。	
	学校給食センターの完成	建物や設備の老朽化が進んでいた学校給食センターの建替えを 51 年ぶりに行い、平成 30 年 4 月から新たな給食センターの稼働を開始した。	
	東播磨南北道路（東播磨道）の整備	東播磨南北道路（以下、「東播磨道」）は、東播磨地域と北播磨地域を結ぶことにより地域連携を強化し、加古川流域圏として一体的な地域の形成に役立つ高規格道路であり、令和 7 年 11 月に総延長 12.1km が全線開通した。	
	新都市中央線の整備	新都市中央線は、国道 175 号と小野工業団地を結び、工業団地へのアクセスの向上と地域の安全性確保に寄与する幹線道路であり、平成 29 年 3 月に全線開通した。	
	新都市南北線の整備	新都市南北線は、新都市中央線からひょうご小野産業団地内を経由し、小野ニュータウンを繋ぐ基幹道路であり、令和 7 年 12 月に全線開通した。	
	道路ネットワーク及び公共交通の充実	市道 101 号線の道路改良をはじめ、市街地の幹線道路網の整備を進めている。また、らん♡らんバス、デマンド交通の運行により、市民の移動を支援している。	
	学校施設の整備	小野南中学校の校舎・体育館（令和 4 年度完了）と旭丘中学校の校舎（令和 6 年度完了）の長寿命化改修工事、新幼稚園の整備工事（令和 7 年度完成）を実施した。続いて、旭丘中学校（体育館）の改築事業や、河合中学校の長寿命化改良事業に取り組んでいる。	

主な施策・事業		概要・状況	整備の姿・イメージ
都市施設整備方針	水道の整備	安定した水供給を行えるよう船木浄水場に膜処理施設、市場浄水場及び河合浄水場に紫外線処理施設を整備し、配水池及び配水管等の耐震化を進めている。	
	下水道の整備	下水道普及率は99.6%となった。農業集落排水施設を公共下水道へ接続する工事を進めている。また、市街地の雨水管渠等の整備を推進している。	
	温泉を活用した観光客の誘致	白雲谷温泉ゆぴかを令和元年に大規模リニューアルした。また、400年以上の歴史のある鍬溪温泉に、観光拠点施設を整備し、地域と連携して新たな観光客の誘致を推進した。	
	小野希望の丘陸上競技場（アレオ）の整備	全天候型 400mトラックを備えた「小野希望の丘陸上競技場（アレオ）」を令和 2 年 4 月にオープンした。災害発生時における救援活動拠点として防災資機材も配備している。	
	堀井城跡ふれあい公園の整備	グラウンドゴルフ場や遊歩道のある「堀井城跡ふれあい公園」を整備し、令和 2 年 4 月に開園した。	
	新ごみ処理施設整備の推進	令和 5 年 9 月に小野市、加東市、加西市の 3 市が、新たなごみ処理施設を浄谷黒川丘陵地内に建設することで合意した。小野クリーンセンターを運営する小野加東加西環境施設事務組合において、新たなごみ処理施設整備事業に着手している。	
水と緑のネットワーク・景観形成方針	おの桜づつみ回廊事業	平成 20 年 4 月にオープニングセレモニーを行い、平成 31 年 3 月以降、ライトアップを実施している。また、持続的な事業継続のため、令和 7 年 4 月に環境保全協力金の活動を実施した。	

主な施策・事業		概要・状況	整備の姿・イメージ
水と緑のネットワーク・景観形成方針	ひまわりの丘公園の改修	大型複合遊具「ひまわりタワー」を新設するなど、令和４年に大規模リニューアルを行い、魅力あふれる「夢と希望を与える拠点」となった。	
市街地整備・住宅地整備方針	土地区画整理事業	組合施行による小野市垂井南土地区画整理事業が令和５年１月に完了した。	
	小野市住生活基本計画の策定	多様な世代･世帯が住宅を確保し、安全・安心・快適に暮らせる魅力的で持続可能な地域を形成するため、令和５年３月に策定した。	基本理念 地域の魅力創造と住民に愛されるまち ～ハートフルシティ小野～
都市防災整備方針	防災備蓄倉庫の整備	災害発生時に拠点避難所となる小中学校、コミセン等に防災備蓄倉庫を新たに整備した（８箇所）。	
	MIZBE（ミズベ）ステーションの整備	洪水による水害の発生が見込まれる際の水防活動拠点としての機能を担い、平常時は地域の人々のレクリエーションの場として活用される「MIZBE（ミズベ）ステーション」の整備を、新大河橋付近の加古川左岸において、令和２年度から進めている。	